

品川支部

令和三年9月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

九月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

オリンピック柔道金メダリスト 阿部一二三のビクトリースーケ



オリンピックパラリンピック柔道・空手等天理大学の柔道部がボランティアでサポートしています。宿泊等の東京でのお世話を教区で協力していますが、ボランティアのお礼に一二三さんから頂きました。

※現在、ドライフラワーになって教区に保存されています

（復興オリンピックで、宮城県産のひまわり・福島県産のトルコギキョウ・岩手県産の lindou が被災地の復興の象徴で使われています）

☆支部行事のお知らせ

- ・支部幹事会
九月九日（木）午後六時～（櫻京にて）
- ・教区ひのきしん
当番は都南組ですが現況で中止となりました
十七日霊舎ひのきしんも中止になっています
- ・支部例会
九月三十日櫻京分教会（二頁参照）
今回も状況によって決めますが二十日迄に決めますのでお近くの教会で確認して頂きたくお願い致します

- ・神名流し
在宅センターひのきしん
いずれも中止です

☆今年の全教一斉

にをいがけデイ

例年会長長路傍講演を含む二十八、二十九、三十日で行われていきます全教一斉にをいがけデイは、昨年引き続き支部毎の判断にての活動となりました。
品川支部ではそれぞれの教会にお任せをし、各所で出来るにをいがけをお願い致します。参加人数の集計はさせて頂きまますので各単位でお知らせ下さい

大阪 新規感染者の分析データ

今年3月1日～8月15日
新規感染者数8万5325人

(TVすっきりで取り上げ)

	陽性者数	重傷者	死亡
ワクチン2回目接種後 14日以降に発症	317人	0人	0人
1回目接種済み又は 2回目接種後14日未満で 接種していない または不明	1801人	31人	18人
	8万3207人	1984人	1557人

【参考】
上表は、大阪府がワクチン接種の効果を発表した物です。接種後も感染は数%あるようですが重症化してはいない様で効果は顕著に出ているようです

コロナ関連情報

本部では八月の月次祭も参拝不可で自教会での遙拝と言うことでした。

・大田支部内大智久分教会長
コロナ感染お出直し
前大田支部長で現厚生部の副部長をおつとめ頂いておりました橋本 誠先生(六十八)がお出直しになられました。グループホームオーチクを設立され広くお助けにご尽力されておいででしたがワクチン接種はまだだったようですが、尚、葬儀はこの状況下で日程等は知らされていません

拠点教会	5日号	12日配達なし	19日号	26日号
日本橋	直送	19日に合併	直送	直送
本 荏	直送	19日に合併	直送	直送
都 南	直送	19日に合併	直送	直送
三ツ木	直送	19日に合併	直送	直送
水豊田	直送	19日に合併	直送	直送

時報手配り九月予定

品川支部例会

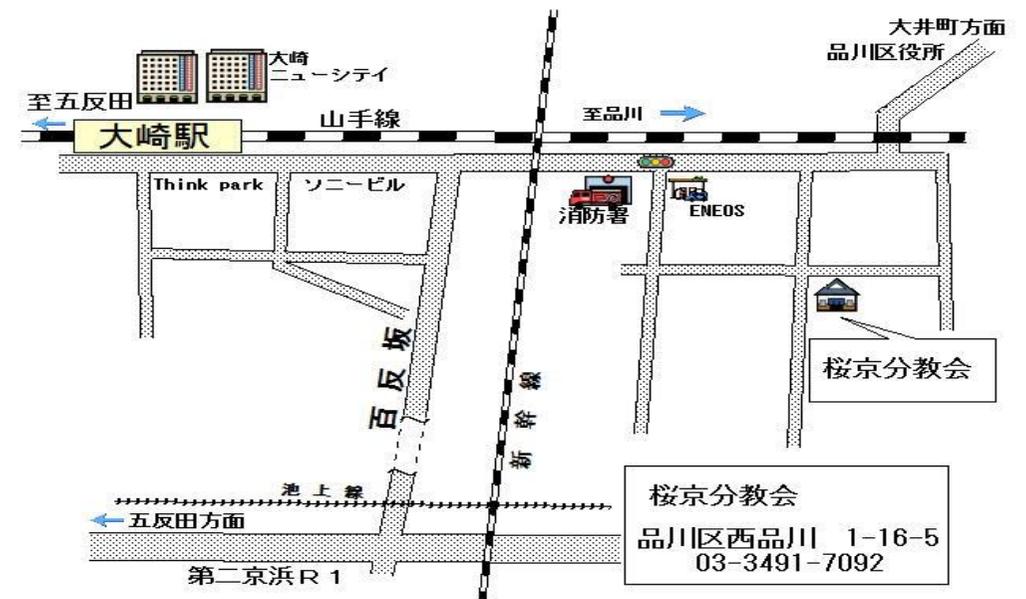
令和三年9月30日 (木) 場所 櫻京分教会

(品川区西品川1-16-5)

内容 おつとめ よろづよ八首 九下り目 東京教区、支部連絡事項 当該教会長 挨拶 昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも

(白足袋ハッピー着用)



五輪を終えて



都南分教会長
西海道生

コロナ禍で開催された東京オリンピックは十七日間の熱戦に幕が降ろされた。正直なところこんな困難な状況の中でオリンピックを開催すること自体、正しかったのかどうかは未だに多くの議論がなされています。

私はオリンピックがなされた事自体は良かったと思っています。それは、何よりも選手たちから直接感動を受けられたことでありました。世界の状況がコロナというパンデミックであるにせよ、選手たちには何の罪はなくその中、彼らから受けたものが大きかったように思います。

オリンピックが一年延びたことから、彼らは、多くの困難を乗り越えた苦悩も知り、絶望感も抱いたことであろうと思います。

世界中のアスリートたちが日本に来て口にするのは「開催されたことに感謝する」「日本の皆さんの努力にありがとう」などの言葉が並ぶ。又、彼ら彼女らも、只競技するのではなく、自分たちの競技から何かを感じてもらえたらという意欲を感じました。

競技の中で、ボートの女子軽量級ダブルスに出場した英国のエミリー・クレイグ選手が感謝のメッセージを動画に残しました。それが次のような言葉です。「オリンピックが開催されるなら、それは東京しかない」と信じていました。日本の皆さんの協力のおかげで、私たち何千人ものアスリートが、今日ここで競技をし、夢を実現することができました。不可能と思われたことにも希望を見出すことが出来ました。」と日本語で伝えられました。

私は今回のオリンピックは、天理教精神「感謝・慎み・たすけあい」の中で開催されたように感じております。

「感謝」は今申し上げたように、選手たちからの数多く聞かれた言葉の中からも伝わってくるものがありました。「慎み」とは、オリンピックの精神でもある多様性への配慮も感じました。※LGBT+のアスリートが出場しスポーツ界に変化をもたらす画期的な出来ごともありました。水泳男子シンクロナイズトダイビング10m高跳び金メダリスト、トム・デイリー選手が若いLGBT+の人たちに向けて「あなたは1人ではなく、何だって達成できることを知って欲しい」とメッセージを残した。又、ニュージーランドの重量挙げ選手で、トランスジェンダーのローレル・ハバードはウェイトリフティング女子87キロ級でメダルを獲得することは出来なかつたが、彼にとって戦いはすでに勝利したと見ていいだろうと思う。又「たすけあい」では、競技の中でもたすけあいの場は数多くありました。

ここで惜しくも四位でメダルを取れなかった十五歳の岡本碧優は、演技最後の大技で転倒。あと一歩届かなかった。悔し涙を見せていた岡本を、ライバルであった各国の選手が肩ぐるまして健闘を称えている姿に感動したのは私だけではないでしょう。

この世界中のコロナ・パンデミックのなか開催されたオリンピックが残していったものは、何だったのでしょうか。私は天理教の提言でもある「感謝・慎み・たすけあい」の精神こそ、この世の中を変えられる力があるのだということこそこの東京二〇二〇オリンピックから学び、感じ、強く信じる次第であります。

西海道生

※LGBT+
セクシュアルマイノリティの総称
レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセク
シュアル(B)、トランスジェンダー(T)、
クィア、クエスチョニング(Q)……どれ
に属するかわからない)

史上最年少オリンピック大者誕生と言え、スケートボードの十二歳日本の開心那ちゃんであります。